

特56

514

名家手簡

下

254

73



秋山玉山

名儀一名定政字子羽別号青柯通稱儀右衛門肥後彦備臣寶曆十三年没年六十二



二ノ一

西學多平致 秋山海分
如海飛重如元
子少、轉當重二致
子少、轉當重二致

の直極子速傾一杯
了下、明夕の星を
幼力の心は心し
と物さし妻良也
おれは、了書如鏡
百枚母子抱竹乞
こし又お母よ抱

給し台也のあよも
徳下、家よ
書し物也
了下、部
あし、原志
あし、母よ
あし、

服部南郭

名元喬字子遷別号芙蓉館通稱小右衛門
寶曆九年没年七十七

小室五郎右衛門
加藤和順

昭憲

清子成海坊各公

其子清國彦坊也

系子也依一

如日泰上上佳了以行下
厚法言言得自然亦十好
至。方物一方有一好問
答上上上法得言好車好
得也也也也也也也也也
上上上上上上上上上上

20470

和以持高上上中中中
得也也也也也也也也也
得也也也也也也也也也
上上上上上上上上上上
得也也也也也也也也也
得也也也也也也也也也
得也也也也也也也也也
得也也也也也也也也也

其又佳安法能也
 了以了年本物の上
 上之法今能后の上
 及言可辨言

三井龍湖

名親和字彌御通稱孫兵衛住江戸深川
 大明二年三月七日卒

九方平御
 三井龍湖

筆

易言一頁也

易言一頁也

易言一頁也

草書
草書
草書
草書
草書

中井竹山

名積善字子慶通稱善太太坂學校教授
書學文徵明

草書
草書
草書
草書
草書

晴金のりあきふり
高き山頂の雪は白
雪の山頂の雪は白
雪の山頂の雪は白
雪の山頂の雪は白
雪の山頂の雪は白
雪の山頂の雪は白

雪の山頂の雪は白
雪の山頂の雪は白
雪の山頂の雪は白
雪の山頂の雪は白
雪の山頂の雪は白
雪の山頂の雪は白
雪の山頂の雪は白

本居宣長

古事類聚

古事類聚

中元と出た所の美屋の所も久
 闊之解忙手おえはつる俄に秋夜
 花人の秘語綿々たるは月夜降の
 ソ坐る哉高元舞衣もあふま
 夕降のふりし方名郎の
 南田母末の信るは物事の
 老人の況り高元舞衣もあふま
 砂と行く事想懐の可憐

あはれ、但し、却る者、在る、其、心
あり、其、徳、分、其、能、く、あり、
一、何、れ、紙、上、に、あり、思、懐、く、
ふ、い、ま、の、中、上、系、京、東、十、年、に
さ、し、像、を、お、成、り、し、時、に、何、年、か、立
口、上、系、に、て、成、り、し、ら、ん、と、
さ、の、氣、に、明、年、三、月、中、旬、に、
赤、上、に、て、お、成、り、し、ら、ん、と、
大、馬、勢、能、七、年、お、成、り、し、ら、ん、と、
輩、お、成、り、し、ら、ん、と、
一、楚、う、お、成、り、し、ら、ん、と、

六十、二、時、何、れ、中、上、系、京、東、十、年、
と、し、る、に、お、成、り、し、ら、ん、と、
用、し、し、ら、ん、と、
必、ず、待、ち、し、ら、ん、と、

八月十九日
江村傳左馬

江村北海

名優字君錫通稱傳左馬門清田僖史兄
青山侯儒臣住京師

了らぬ所あるに
物あるにこそあるにこそ
其の命を以てして押さへ
しるはかたきとて使西
の命を以てして國に

七 天竺の國にありては
一 長生國にありては
持子ありてはありては
年々ありてはありては
先子宗ありてはありては
高き上ありてはありては
上ありてはありては
味ありてはありては
味ありてはありては
味ありてはありては
味ありてはありては

リヨクノカクニシテ
ニヤクニシテ
ノミヤクニシテ
ノミヤクニシテ

五石田長年休 存德心

釋月僊

勢州山田宇治寔照寺住僧能画初學
圓山應孝後成一家

釋大典

名竺常一名顯常別号梅莊溪海人住京呼相國寺
慈雲菴書學趙松雪寬政中寔

市一市家内よりいふは

心はるのりし葉樹り

形はさるのりし葉樹り

梅王位情ふふ

甚るるのりし葉樹り
江中法務猪り

頃者一隣之言の
連片、独に世帯思
程、都に至り、皆、
如國之産、如銀、
口試、
先書、
先書、
先書、

予、
舊、

市村、
標

釋六如

名慈周字六如号白樓别号葛原或無著庵
住京師以詩鳴

予有弟兒女作新法之記
予年之改也其法之記
如懷柔人之聖德之記
口勸其心之記

二二

一書亦存心之記

上端情之記

字之記

道之記

此之記

ついでに書きたる

うらな

林泉
書

うらな

うらな

うらな

うらな

うらな

うらな

上の子の心
をわきまか
くわたり
ておどろ
かす
おどろ
かす
おどろ
かす

十の百の
子
を
わ
か
り
な
か
ら
な
い

あまのしん
きりしん
あまのしん
あまのしん

あまのしん
あまのしん
あまのしん
あまのしん

了如の如き
名を喜庵

岡本喜庵初名正武後宣就又宣成号無名道者通稱半助
彦根侯軍師學嵯峨天皇書故世稱天皇流能連歌及茶事
明曆三年三月十一日辛年八十三法名秀歡

趙陶齋

名養字仲願一号息心齋或清暉閣長崎人晚年住
泉州界府号拘把園天明六年没

文の丈由馬

少の如き
名を喜庵
彦根侯軍師
學嵯峨天皇
書故世稱天
皇流能連歌
及茶事
明曆三年
三月十一日
辛年八十三
法名秀歡

了却心中事
林林如草
竹如松
石如玉
水如金
山如畫
人如仙
此乃神仙
之境界也

此世如夢
中月如鏡
空手如金
石如玉
水如金
山如畫
人如仙
了却心中事

草如晴
月如
夜如
月如

佐木文山

名潤龍字文山俗稱百助号墨華堂之龍弟
享保二十年没年七十七

月如月如
月如月如
月如月如

山家詞話卷二

詩經卷之三

詩經卷之三

詩經卷之三

詩經卷之三

詩經卷之三

詩經卷之三

254

73

